

# 第1回環境測定分析士1級取得者座談会

(一社)日本環境測定分析協会 出版・会誌委員会 編集

## ■はじめに

「環境測定分析士」(以下、分析士)は、日本環境測定分析協会にて平成18年より開始された環境計量に携わる方たちのための資格制度です。本資格は筆記試験のみならず、上位の級において実技等の実践的な試験を伴うものであることから、信頼性や適正さが問われる環境測定分析業界において非常に意義あるものと考えております。このため、平成30年3月現在、合格者は既に3,500名を超えた状況の中、この資格による技術力を国や地方公共団体を始め発注業務における精度管理の一つの要素として活用されるよう、今後更にPRしていきたいと考えています。

環境測定分析に携わるより多くの方々に本資格について知っていただき、取得していただきたい。そのような思いから、協会では、この度、分析士取得者の方々との座談会を開催することといたしました。

分析士の資格を取得された方々に、取得後の変化や日頃の業務の様子をお聞きすることで、環境測定分析業界における本資格の重要性を確認し、更に、その内容を発信することで、より多くの方に資格について認知していただけたらと考えております。

また、我々協会としましても、「分析士」の現状を知ること、本資格の更なる発展や今後の協会活動に活かしていく所存です。

## ■各専門分野におけるプロフェッショナル、1級取得者の皆様をお招きして

分析士には1級、2級、3級の資格があります。3級はどなたでも受験が可能であり、筆記試験のみの実施ですが、1級及び2級の受験にはそれぞれ5年及び3年以上の実務経験が必須となり、筆記試験に加え実技試験と面接試験/電話ヒヤリング試験が実施され、専門的な技能が問われる内容となっております。また、分析士1級及び2級は、4つの専門分野(第1分野(一般項目)、第2分野(金属類)、第3分野(有機物類)、第4分野(極微量物質類))ごとに認定を行っており、受験の際にはこの4分野から一つを選択して挑戦していただいております。

座談会にご参加いただく方は、分析士の中でもとりわ

け高度なテクニック及び知識をお持ちと認定された1級を取得された皆様です。第1回座談会では、その中で第3分野(有機物類)を取得された方々をお招きし、平成30年1月16日(火)、日環協3F第一会議室にて開催いたしました。

## ■1級第3分野を取得された4名の皆様

座談会には、日環協から松村 徹会長、関口和弘副会長、河野達郎副会長が参加いたしました。

はじめに、松村会長より挨拶がありました。

松村 「第3分野取得者である4名の皆様にお集まりいただき、大変貴重な機会となりました。環境分析のプロ中のプロである皆様に、広く、ご意見を含めてお伺いできればと思っております。よろしく願いいたします。」

続いて、関口副会長と河野副会長の挨拶がありました。関口 「分析士は、私自身も資格設立当初に3級を取得しました。私の所属する会社(内藤環境管理(株))でも、これから力を入れていかなければならないということで、参考書の購入などを進めているところです。本日は、分析士を取得した意味合いなどについてもお伺いできればと思います。」

河野 「私の所属先((一財)東海技術センター)でも、ここ数年特に分析士の取得に力を入れています。本資格取得による社内の立場的なメリットや、インセンティブ等についてもお伺いできればと思います。」

そして、お招きした第3分野取得者の皆様に自己紹介をしていただきました。初めは、(株)オオスミ 分析技術グループ 主幹技師の管 雅英さんです。

管 「私はこの環境測定分析業界に入って20年になります。神奈川県横浜市に本社があるオオスミに入社し、主に有機物分析関係の業務を行い、そのあと計量管理を10年ほど担当しました。現在、分析は指導することが多く、自分が直接行う機会はあまりないのですが、特殊な項目を分析することがあります。また、お客様からの問い合わせに対応して、分析方法の提案や試験結果を考察してレポートを作成したり、現場の管理なども行っています。」

分析士は、最初に試験が実施された時に取得しまし



(株)オオスミ  
分析技術グループ 主幹技師  
管 雅英さん

た。初めに3級を取得し、その後2級、1級と順次取得しました。名刺の肩書に分析士も入れていますがPRできればという気持ちがありました。会社でも案内していますが、このような機会をいただきましたので業界を盛り上げていければと思っています。今日はよろしくお願いたします。」

続いては、中外テクノス(株) 環境事業本部 本部環境技術センター 分析技術室 課長の吉野幸博さんです。吉野 「今日は一人遠方から参りました。我が家からは宮島の棧橋が見えていまして、毎朝宮島を眺めながら出社しています。中外テクノス(株)本社は広島市内にありまして、駅から徒歩10分くらいのところですよ。」

私は平成5年に入社しまして、当時は排ガス計測や水質サンプリングで現場に行くことも多かったのですが、社内にいる時はGCを用いた有機関係の分析をしておりました。我々の業務範囲である山口県や広島県では、以前から臭気指数を導入している官庁や民間企業が多かったため、実施するために不可欠な臭気判定士の国家資格を、新設された平成7年に取得しました。その後は、悪臭からVOC成分、農業に至るまでGCやGC/MSを中心とした機器分析に携わっておりました。平成21年頃には管理を任されるようになりました。そして4年ほど前に、それまでと全く異なる無機分析を行うグループに異動になりまして、現在は実際に分析するよりも管理の方を任されているわけですが、自分としては幅広く経験させていただいているところです。

分析士1級の資格は、私は今日お集りの皆様の中では恐らく一番遅く取得したのではないかと思います。平成27年度試験で第3分野を取得しました。それからちょうど2年くらいになりますが、こういった機会をいただきまして、どういったことを話せばいいのかな、という不安もあったのですが、同じ業界の方たちといろいろお話



中外テクノス(株)  
環境事業本部 本部環境技術センター  
分析技術室 課長 吉野幸博さん

ができることを楽しみに参加させていただきました。今日はよろしくお願いたします。」

続いて、(株)住化分析センター 経営推進本部 技術・経営戦略室、クライアントサービス本部 健康・安全事業部の吉田寧子さんにご挨拶いただきました。

吉田 「私が入社したときは、千葉県袖ヶ浦にあるラボの環境分析グループで、VOCと当時環境ホルモンの問題が起こっておりましたのでGC-MSを使ったそれらの分析を担当しておりました。そのあと対象物を広げるといことでLC-MSを使った分析も行いました。また、基盤業務を行いながら、分析法開発の業務も担当しておりました。2年ほど前に現場を離れて、今はお茶の水のオフィスに異動になり、広く分析技術、科学技術を調べるという役割に代わりましたので、今は直接この資格を使っているわけではないのですが、当社の場合は愛媛ラボと大分ラボに比較的環境の業務を集約しておりますので、そちらの方の実情も聞きながら、本日はどのくらい皆様のお役に立てるか心配ですが、ここに来る前に改めて、分析士ができたときの意義や役割を確認してきたところです。この資格は、分析士ができた当初に、ラボの人たちと一緒に受験して取得しました。自分自身の力試しの気持ちでなんとか合格したいと思って一生懸命取り組んだ記憶があります。よろしくお願いたします。」

最後に、(株)環境管理センター 技術本部 技術センター 石井善昭さんにご挨拶されました。

石井 「私は20数年前に環境管理センターに入社しまして、当時ございました研究開発部門に配属されました。ちょうど吉田さんがお話されておりましたように環境ホルモンの問題となっていた時期でしたので、LC-MSなどを使って有機物の分析方法を検討するといった内容の仕事をして10年ほど担当しておりました。その後異動がありま



(株)住化分析センター  
経営推進本部 技術・経営戦略室  
クライアントサービス本部 健康・安全事業部  
吉田寧子さん



(株)環境管理センター  
技術本部 技術センター  
センター長 石井善昭さん

して、濃度計量分析の管理をすることになりました。現場に入ることが少なくなりまして、私も10数年、分析らしい分析をしていないということで、このような分析士の資格をいただいて心苦しい限りではあるのですが、自分の中で矛盾を感じながらやってきているところでございます。

今回の座談会は第3分野ということで有機物分析ですけども、今は、当社の技術センターということで、有機分析に限らず様々な分野の分析者が頑張ってくれている中で一般的な管理をする立場であり、自分の知識的には第3分野だけではダメなんだな、と反省しながら過ごしています。もともと有機物の分析をメインでやってきており、管理する立場になってからはダイオキシンの分析なども同じグループ内で実施しているところがありまして、その関係で、日環協には、極微量物質研究会(UTA研究会)の委員としても年4回ほど参加している状況でございます。よろしく願いいたします。」

参加者の皆様の自己紹介が終わると、和やかな雰囲気です座談会がスタートしました。

#### ■座談会テーマと、「分析士を取得して変わったこと」

今回は、座談会のテーマを大きく下記の3つとしました。

- 環境測定分析士取得の意義、メリットなどについて
- 資格及び資格取得者に対するPR方策について
- 資格認定制度全般(今後の在り方、方向性など)について

本資格そのものの価値については、我々日環協で高めていく責務があると考えますが、取得することにより得られたことや社内でのメリットなどがあればご紹介いただきたい、そして、今後のPR方策等に繋げていきたいという思いから、以上のようなテーマといたしました。

まずは、皆様に資格取得後の変化についてお伺いしま

した。管さんは、資格取得後に、資格の名称が入った名刺を配った際に何人かの方に「持っているのですね」と声をかけていただいたそうです。

管 「それを聞いたら、「あ、知っているんだ」と嬉しくなりましたね。もっと、何かのきっかけで広がっていきやすいような仕掛けをしていきたいなと思っています。」

松村 「(資格の知名度を上げることは)、日環協としても、今、力を入れているところです。また、PRをしていく中で、「非常に高度な内容の試験である」ということを大きなアピールポイントとしています。試験制度をスタートするときにも委員の先生方と話し合っていたことですが、分析士1級は絶対に乱発しないようにしています。実技試験は勿論ですが、面接でもかなり専門的な質問があったと思います。面接官も素人ではなく、自らがその分野でやってこられた経験がある方になっていただいておりますので。そういった試験を突破し、「この人だったら」という人を認定しています。

今後も、1級の合格水準についてはそのままキープしたいと思っています。認定者数を増やしたい想いはあるのですが、そのために安易に発行したりはしません。カリスマ性をもたせて、先ほどおっしゃられたように名刺に書いてあったら周囲の人から「おおっ！」と驚かれるような資格にしていきたいなと思っています。」

吉野さんの会社では、環境計量士だけでなく、分析士にもウェイトが置かれるようになり、受験者も比較的多い環境とのことです。吉野さんは分析士が開始した頃、早々に3級を取得し、そして2級と順調に取得しましたが、1級へのチャレンジには少し迷いがあったと言います。

吉野 「1級の方は、以前から内容を見させていただいているとかなり専門的で高度なことが問われるようで、色々説明もできなければいけないということで、挑戦





(一社) 日本環境測定分析協会  
松村 徹会長



を避けていた部分もありました。それでも、やってみてはどうかということでも2年前にチャレンジいたしました。なんとか取得できました。そして合格後、会社では全体朝礼の時に、私がか社で初めて1級を取得したということで発表してもらいまして、それが非常に嬉しかったですね。そのあと、HPにも名前が掲載され非常に嬉しく思っております。

さらにそのあと、1級のポイント(注：資格更新に必要なCPD[自己研鑽]の点数)も必要なので、これまで過去に一度しか受験したことがなかった環境計量士に再チャレンジしまして、それも無事合格することができました。私的には、分析士2級を取得して1級、そして環境計量士と、結果的にその順番が学びやすく、良い流れで満足しております。」

分析士の取得が、環境計量士試験の追い風になったとのことでした。他の試験との両立については、石井さんもお話しくささいました。

石井 「私はあまり長く沢山勉強するのが苦手であれなかつたので、まとめて2、3年くらいの間で分析士、技術士、環境計量士を取得しました。

また、私も吉田さんと一緒に第1回目の試験で1級を取得しまして、その時に名刺に記載しました。「どうだ!」というよりは、「珍しい資格がございます」くらいの気持ちで入れました。お互いに「1級」が入っている名刺をいただくとおお!と驚く、という感じで、名刺に入っていたらレアな資格というようなイメージがあります。」

1級取得後には、名刺に資格名を入れていただいた方が多かつたようです。しかし、1級、2級の受験者数や知名度はまだ高くないのが実態のようです。また、吉田さんのお話から、受験意欲や試験会場に関わる課題もみえてきました。

#### ■会社の環境により異なる分析士への認識や待遇

吉田 「先ほど私どものラボが愛媛や大分といった、首都圏とは離れた場所にあるとご紹介いたしました。分析士試験の意図や出題内容が、やはり環境分析には必要な技術や知識だということでチャレンジは推奨しております。愛媛や大分のラボでも3級はみんな頑張つて受験するのですが、そこから先、実技試験が入つたり、大分の場合には福岡の試験会場まで行かなければならなかつたり、自分がもう一歩努力すべき要素が増えると受験者も少なくなる傾向にあります。そういった部分が一つの壁になっているようなイメージがあります。また、期の初めに上司との面談がありますが、その中で今年はこの技術をもう少し伸ばしてみようか、というような個人の目標設定があります。その中で分析士試験に関する話題が出れば、試験に対する取り組みも増えていくと思うのですが。今は知名度と、距離感という点で二の足を踏んでしまつてるところがあります。また、資格の有無が絶対条件となる仕事があ現状無いため、どれを優先して個人の取り組みを進めていくか考えた際に、いの一歩上がる、というところまで行っていないのが実情のような気がしています。」

石井 「吉田さんがおっしゃるように、環境計量士や技術士といった資格は入札資格要件に挙げられるなど、分析士と比較すると業務的に活用する機会が多いのが現状です。環境計量士も技術士も分析士もそれぞれ求められているものが違い、役割も違いますので、それぞれの使役どころがあるはずなのですが。どうしても業務としてこれがないとあならない、これがあればどうだ、というのを見つけれず、自分としての使役どころもなく、そのため分析士を周りにもアピールできていなくつたと感じています。」

やはり、業務に直結する資格がより重要視される傾向



(一社) 日本環境測定分析協会  
関口和弘副会長



(一社) 日本環境測定分析協会  
河野達郎副会長

にあります。それぞれの会社の条件や雰囲気によっても分析士に対する認識は異なっています。「実は会社の中でも資格に対して意見が分かれている部分もあります。」と吉野さん。

吉野 「取得して何のメリットがあるのか、という人もいるのですけれども、逆に、いろんな人が取っているから自分も頑張ってみよう、という人もおまして、毎年、3級、2級の合格者が出ている状況です。今年は1級の1次試験に1名合格者が出ています。私共の社内では、クローズアップされている雰囲気があります。」

そこで、参加者の皆様で分析士取得による社内的なメリットや、インセンティブがあるのかについても情報交換しました。

お集まりいただいた方の会社では、下記のような制度が設けられているそうです。

- 受験費の補助
- 受験時の旅費の補助
- 合格時、あるいは登録時の報奨金付与
- 毎月の資格手当支給

会社により制度の範囲は様々ですが、分析士の重要度が制度の充実化へ直結すると思われ、そういった面からも協会として分析士の地位向上が必要と考えます。

#### ■分析士の更新制度に関して

環境測定分析士1級、2級及び環境騒音・振動測定士上級には、更新制度を導入しています。実務経験や講習会等の参加、国家資格取得によって得られるポイントを集め、5年に一度の更新手続きが必要となります。その制度や手続きに関するご意見を伺いました。

「更新があるというのは、常に勉強しなければならないので技術をやっている人間にとっては非常に大事なことでと思います。」と管さん。

しかし、皆様のお話から、日々分析業務に携わってお

られる方たちにとっては、次のような理由で更新が困難になる場合もあることが提示されました。

- ① 5年に一度なので、ポイントがあることや更新そのものを忘れてしまう。
- ② 業務や地理的な理由で、外部の講習会等に参加しづらい。
- ③ 取得した分野と異なる業務内容の部署に異動してしまった。

①については、協会では更新年度が近づくとお知らせを郵送しておりますが、それまでの講習会等の参加を失念してしまう方もいらっしゃるようです。また、住所や連絡先が変わられた方で、変更のご連絡をいただけなかった方に、ご案内をお届けできないこともございます。お手数ですが、ご住所等に変更が生じた際には、事務局に一報をお願いいたします。

また、②のように、様々な理由で講習会等に参加が難しい方もいらっしゃいます。そういった方たちのために、科学技術振興機構JREC-IN Portalの研究人材のためのe-learning(<https://jrecin.jst.go.jp/seek/SeekTop>)のコース修了によっても更新のための点数を付与しております。ぜひそのような制度もご活用いただき、更新を継続していただければと思います。なお、座談会では、「インターネットを利用した更新制度がある」とよいのでは」というご意見もいただきました。

③に関しては、本日お越しいただいた吉田さんや石井さんも1級取得後に業務内容が変わられています。そこでお二人に更新に関して苦労されていることがないかお伺いしました。

吉田さんは、「今は技術の調査であったり、各ラボの方から分析法の問い合わせをもらい一緒に考えたりという役割があるので、学会にも行きやすい立場ではあり、更新点数を集めることは比較的スムーズにできていま



す。」とのこと。さらに、吉田さんの場合は啓蒙活動的な意味でも更新を続けてくださっているといいます。

吉田 「私の場合は、何かにチャレンジして、自分の頑張りを形にすることもできるからという意味合いで、少し周りにも影響があるといいなという形で更新をしています。ただ先ほどお話されたように、インターネットを利用した更新のシステムとか、そういったものを入れていただくと、もう少し地方にも拡散できるのかな、という思いがありました。」

松村 「分析士立上げの際に、資格を取得後全く異なる分野に異動された場合の更新についても議論になりました。違う畑に行かれた場合、トレースも難しいということもありました。しかし、ラボで熱心に分析をされているテクニシャンの方が講習会などに行く機会がなく、逆に更新のための点数が集められないということに対して何か救済しなければ、と考えております。」

石井さんも、資格更新については「貴重な資格なので継続していきたい」とのことでした。

石井 「私も現在は1級の資格を直接活用する立場ではないものの、分析士1級について、自ら手を動かし分析の技術を継続して磨いていくということに加え、それを持って指導するとか、後輩を育成するといった役割も負荷されているはずと思いつつ更新を続けております。また、私も学会などには比較的参加しやすい立場にあり、日環協のUTA研の委員でもありますので、その関係で更新に必要な点数は貯まりやすい。しかし、皆さんがおっしゃられるように、現場で実際に分析をやられている場合にはなかなか難しい面もありますよね。」

資格を取得された方のそれぞれの状況や立場も考慮し、更新制度については皆様のご意見を参考にしながら今後も検討を続けていきたいと思っております。

#### ■分析士試験のPRに関して

続いて、資格及び資格取得者に対するPR方策に関す

る話題となりました。

協会では既にいくつかのPR活動をスタートしております。

- 協会HPにおける環境測定分析士1級、2級及び環境騒音・振動測定士上級登録者情報の公開
- 発注者となる関係団体への上記登録者情報の送付
- 「環境と測定技術」における取得者体験談の掲載

これらのPRに加え、松村より「協会HP上に1級や2級、上級登録者専用のフォーラムのようなページを作りたい」と今後の構想についても語られました。

以上のような展開を計画しておりますが、この機会に1級取得者の皆様の立場から、何かご意見やアイデアがあればご提供いただきたいと思います。

管さんからは、「日環協の催し物の時に、分析士についてアピールし、生の声をかけるのがよいのではないか」とご意見いただきました。会長、副会長もこの意見に同調し、全国大会にてPRの時間を設けるといった、企画進行について話が盛り上がりました。特に、平成30年度経営者セミナーの開催地となっている中部支部で、支部長も務めている河野副会長は、「経営者対象のセミナーで経営者層に呼びかけるのも別の意味で良いかもしれません。」と前向きに検討している様子でした。

さらに、「入札要件に入ることも、受験者や知名度が広がるきっかけになるのでは」というご意見をいただきました。松村会長は、「鳥取や大阪では入札要件に入れていただいたことがあります。他の自治体でも取り入れてもらえるように、継続して働きかけを実施しています。」と現状をお伝えし、「これからもこういった動きを広めていければ」と今後の展望について話されました。

#### ■よりよい資格試験を目指して 今後の在り方について

次に、資格認定制度全体を通じて、今後の在り方や方向性などについて思うことを皆様にお聞きしました。





「ご意見があればなんでもお聞かせください。」と松村会長が呼びかけると、まず挙がったのが「受験料・更新料が高いのでは」ということでした。受験は勿論ですが、更新についても、個人の気持ちに関わる部分が多いものです。「更新料の改定は、そのモチベーションの維持にも寄与する可能性があるのでは」という声をいただきました。

「モチベーション」が話題となりましたので、関口副会長より各社内のモチベーションに関する質問がありました。

関口 「先ほど、吉田さんから力試しのつもりで受験したというお話がありました。皆様、現在は部下をお持ちになっている状況かと思いますが、部下の人たちが、そういった気概をもって、チャレンジしてみようという動きなどがありますでしょうか。以前と比べて変わったことなどはありますか。」

これに対し吉田さんは、「チャレンジしようという意欲はあるのですが、普段の業務と異なる試験を行うので別途試薬を購入したり、時間をとったりという必要があるため、ためらいもあるようです。」とのことでした。この他にもそれぞれの会社によって、報奨金が出るというような、取得後の見返りがより大きい、優遇された資格を率先して取る傾向があるそうです。それだけでなく、分析士という、資格そのもののハードルが高いという認識も、受験をためらう要因の一つにあるようです。

吉野 「あとはその年の雰囲気もあると思います。私の会社では、自分の周りで何人か受ける人がいれば、一緒に受けに行こうかという話になって5、6人が一緒に受験することもあります。他の会社でも同様に話が盛り上がってくると、デリバリー試験にもつながってくるのではと思います。業界全体がそういった形でどんどん盛り上がっていけばよい方向に行くのではと思います。」

また、「試験の時期も受験者にとって重要」と吉野さんは言います。

吉野 「計量士国家試験が平成30年度より12月実施になるという話があります。そういった試験時期によって、環境計量士あるいは環境測定分析士、公害防止管理者などとターゲットを絞って挑戦する方もおられるので、日程的に難しくなるケースが発生してくると思います。周りの盛り上がりにあわせてPRを行うと、展開によっては伸びしろがあると思います。」

現在、分析士3級・2級試験及び騒音・振動測定士初級試験は毎年実施していますが、1級試験及び上級試験は2年に一度の実施となっています。年内の試験日程は勿論、隔年における実施に関し、業界全体の動きを掴んだ計画が必要かもしれません。

河野 「ちなみに、皆様の会社の中で、資格取得計画の中に分析士は入っていますか。」

これについては、ほとんどの会社で「まだ入っていない」という回答でした。個人が取りたい資格を取らせている、業務を行う上で絶対的に必要な資格を取らせている、いずれの場合にも、国家資格である環境計量士や公害防止管理者が優先されているようです。一方で、河野副会長の所属する団体では、分析士試験が内部におけるよいステップとなっていると言います。

河野 「私の団体では、新入職員の内部研修と並行して、まず分析士3級を取得しようという動きがあります。去年もかなりの人数が受験しまして、入社1年目の職員が一人合格することができました。実は、環境計量士の場合は入社1年目で合格するのはなかなか難しいのです。また、試験というのは受かり癖といいますか、受かり始めるととんとん拍子に受かるときがあります。そういう意味で、1年目はまず分析士3級を取ろう、2年目は公害防止管理者を取ろう、3年目は環境計量士を取ろう、と内部で推奨しています。そして、その環境計量士の次に私たちが取得を推奨しているのが分析士の2級と1級なのです。このように、ホップ・ステップ・ジャンプのような体制ができて、内部でも意外と受けが良いで





すね。そのあたりをアピールしていきたいと思っています。」

社内教育の一環となることは、業界全体の技能向上につながるだけでなく、会社側が個人の評価に活かすことも可能となります。

関口 「今年の「環境と測定技術」12月号で、ご覧になっている方もいらっしゃるかもしれませんが、分析士1級を取得された村井幸男さんに寄稿いただいた記事「環境測定分析士資格取得のすすめ：「ありがとう」のために」の文章をご紹介させていただきますと、「最も重要なスキルは、分析技術上の課題を抽出し、検討計画を立て、解決策に導く【課題解決スキル】ではないでしょうか。次いで、真の要求を聞き出し、要領よく分析技術を説明する【応対スキル】があり、更に緻密で正確、手際よい【実験スキル】が重要だろうと思っています」と。そして、村井さんが受験された環境測定分析士試験は、それらのスキルをしっかり問う内容だったとのこと。続けて、「そもそも環境測定分析士試験は、分析技術者の実務能力を評価するために存在しています。」と書かれています。村井さんのおっしゃるように、分析の実務能力を適正に評価するときに、分析士がまず一つの有効な手段ということですね。」

ぜひ、社内の教育訓練としてもご活用いただきたいところですね。

なお、吉野さんの所属団体では、3級は既にほぼ全員が取得されている状況とのこと。社内全体で、「まずは3級を取得する」という流れができていますね。

#### ■「分析士」を取得してよかったことは？

最後に、関口副会長が、分析士1級を取得してよかったこと、具体的にこんなメリットがあった、といったエピソードについてお聞きしました。

吉田さんは、「直接的にはあまり「メリット」を感じられていないのが正直なところ」とのこと。それでも、実技試験で、一筋縄ではいかないような内容の問題

を考えさせてもらうことはなかなかないので、受験すること自体とても大事な機会となったそうです。

石井さんは、10年以上実務に直接携わっていない状況ですが、センター長としてこの資格を持っていることが一つの自信になっている、とのことでした。

また、吉野さんは最初におっしゃっていたように、社内の全体朝礼の場で表彰していただいたことや、ホームページに名前が載っていたことを知人から言ってもらったことが記憶に残っているそうです。また、広島県内では村本中国・四国支部長が積極的にパンフレットの配布等を行っていることもあり、分析士について知っている方が多いそうで、計量証明事業協会(県単)のイベントで同業の方とお話する機会に、1級取得について触れていただいたことも嬉しかったとのこと。

管さんは、この資格を持つことによる優位性のようなものは、あまり実感としてはない、と言います。

管 「それでも、同業の人たちと仕事をする際には「分析士」という資格があることを話題にしています。今はまだ、多くの方が「受験」という、一歩踏み出す段階まで行っていないのがもどかしいところでもあります。ただやはり、冒頭でも申し上げましたけれども、「分析士」の名前が入った名刺を地道に配って、「おっ」と思っただけならば、それが一つのきっかけにはなるのかなと思います。」

#### ■今後の課題

皆様のお話を受けて、「協会からのPR不足が課題の一つですね」と関口副会長。

関口 「1級は、先ほど松村会長の発言にもありましたとおり、「この人だったら」という人にしか認定していない選ばれた資格です。しかし、その部分がなかなかPRできていないこともあり、「すごいんだぞ」ということがあまり世の中に知れ渡っていないのが問題ですね。」

「ちなみに、分析士という資格の存在自体は、皆さんの周りの方ではご存じなのではないでしょうか。」という関口副会長





の質問に対しては、「あまり認知されていない」というご意見と、「存在は知られています」というご意見があり、様々でした。

関口 「私自身は、業界の中、特に、日環協に入っている正会員には知れ渡っているのかなという意識があったのですが、なかなかそういう状況でもないのかもしれないね。やはり、協会からのPRが不足しているようです。」

河野副会長は本日の座談会から、今後のPR方法について思いの感があったと言います。

河野 「今日の話の中にあつた、いろいろなPR方法の中で私も初めて気が付いたのですが、日環協が実施する講習会、例えば計量管理講習会などがありますよね。そういった機会に一コマ時間を作って、分析士のPRをしてはいかがでしょうか。特に計量管理講習会は、全国から70~80人の計量士の方が参加されます。そういった方たちに対して、計量管理者あるいは環境計量士のもう一つ上の目標として、実務的にも、この分析士1級はあなたたちの次の目標になりませんか、とアピールするのはいかがでしょうか。もしそのような講演をしたら、今日お集りの皆様にも講師をしていただきたい。勿論、すぐにとということではなくて、主催する委員会やその委員長らと相談する必要があるのですが。」

参加者の皆様も、このアイデアについて賛同してくださいました。

管 「それは良いかもしれませんね。実は私自身も計量管理を担当していて、1級はその間に取得したのですが、1級を持っている人が多くいれば計量管理がやりやすくなってあなたたちが楽になるんですよ、という話になってしまうかもしれないですけど(笑)。

やはり技術を持っている人を多く抱えたほうが、本当の意味でもきちんとした管理ができるということですね。」

ね。」

ここで、終了の時間となりましたので、松村会長から最後に挨拶をいたしました。

松村 「皆様、数々の貴重なご意見をありがとうございます。今回、第3分野を取得された4名の皆様にご参加いただきましたが、まだまだ(分析士1級取得者の)数を増やしていく努力が必要と考えています。認定レベルを維持しつつ、よりたくさんの方に分析士1級を取得していただきたいと思います。そして、取得者が増加することで、「この分析を発注する場合にはこの分野の人がいなければならない」というような要件が確立できれば理想ですね。本日は、皆様本当にありがとうございます。」

#### ■まとめ

今回の座談会を通じて、次のような課題が見えてきました。

- (1) 日環協による更なるPR
  - HP等を活用し、実務的に非常に優れた人物を認定していることの周知
  - 日環協主催のセミナー、講習会等での紹介PR
- (2) 「分析士」の地位の向上
  - 入札要件等において評価していただけるための要望活動
- (3) 受験者、取得者の利便性
  - 更新等試験制度全般の更なる検討

以上のような課題を検討しながら、環境測定分析士、環境騒音・振動測定士試験がより良いものとなるよう努めてまいります。また、今回は1級第3分野の皆様にお越しいただきましたが、今後、他分野の皆様もお招きし、定期的に座談会を開催していきたいと考えております。これからも、皆様のご理解、ご協力のほど、宜しくお願い致します。

